

保険薬局の動向

薬樹が「ママさん薬局」を出店

育児と仕事が両立可能な労働環境を実現

首都圏を中心に保険薬局を展開している薬樹(本社神奈川県)が、先ごろ、育児のために短時間勤務する薬剤師のみを従事させた「薬樹薬局 鷺沼3号mami店」をオープン

した。育児世代の女性が働きやすい環境を創出することで、特に地域の母子に向け、「ママさん薬剤師」が「母親であること」を生かした健康サポートを具現化していく。

東急田園線の鷺沼駅北口より徒歩2分の場所にある同店は、月曜日から金曜日の9時から17時までの営業。同社では育児休暇明け、または子どもが3歳になるまでの間、1日2



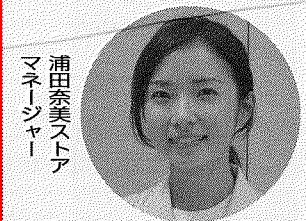
大通りに面し入りやすい同店舗(外観)

同店をオープン。働く側のメリットだけではなく、妊婦や育児中の生活者に対し、自身の妊娠や出産、育児の経験から得た気付きを生かすことで、きめ細やかな服薬指導や健康アドバイスが実施でき

る。同店で勤務する「ママさん薬剤師」の一人、浦田奈美ストアマネジャー(管理薬剤師)は語る。「子を育てながら働いている身として、時間的に安心して働けるシフトを用意してもらっていると感じる。また、『食べない』『飲ませづらい』など自分が経験したことなら『自分はどうした』と子育てで得た知見をお客さまに直接、還元できる点もうれしい」

国内の労働環境を見渡すと、育児と仕事のアンマッチが改善されておらず、「評価に響く」「肩身が狭い」といった理由で退職を余儀なくされる事態が放置されてきた。据える人事を行った。これにより、「保険薬局とは処方箋が入場券」というイメージを打ち破っている。「私どもの職場環境を社会に提案することで『こうした薬剤師のワーキングスタイルもあっていい』と思って頂けたらと思う」と前出の浦田氏はそう話し、地域で子育てママたちが孤立しないように薬剤師と相談し合える関係を構築している。

前後の所有株式の状況は、異動前の所有数110株(所有割合0・0%、議決権の数0個)。取得株式数11500株(議決権の数5000個)、異動後の所有株式数500株(所有割合100・0%、議決権の数500個)



浦田奈美ストアマネジャー

店内は白とアイボリーの色調で、すっきりとした清潔感を醸し、トイレには大きめの「おむつ交換台」も用

意。女性でも手に取りやすい高さの陳列棚には、子ども向けの服薬補助商品やサプリメント、妊娠検査

薬など、母親&お子さんのニーズに配慮した商品・薬が並ぶ。「近隣には当社が2つある。薬剤師が足りない状況をストアマネジャーに

「V」の決済代行サービスにおけるテナペイ社との業務提携に関して、「北海道企業「小売流通業」

光客の志向も変化し、さらに団体旅行から個人旅行へのシフトが見受けられ、道内観光の活性・推進、中国を含めたアジア圏観光客の利便性の向上、インバウンドビジネス



すっきりと清潔感のある店内

2016年は、訪日中国人観光客が1~9月累計で500万人(昨年同時期の約3割増)を超えている。また、首都圏や関西方面から地方へと中国人観

業交流の基盤にするなどの考えのもと、業務提携契約の締結に至った。

ス関連国と日本双方の商

「地域の多くの人に役立つ薬局の具現化」という方針の下「治療」と「予防・未病」を両輪とした栄養相談の実現のため、管理栄養士